

話題の三冊

本書は、子どものことばの専門家として日本の言語聴覚士を牽引してきた中川信子氏が、子どもを育てるすべての親御さんたちに伝えたい思いを込めて書かれた最新刊です。

近年、ことばの遅れを伴う「発達障害」や「自閉症」という名称が広く認知されるようになり、「うちの子はもしかや発達障害では?」「このお子さんは自閉症では?」という心配や相談が随分と

増えてきた印象があります。同時に、その関連の書物も多く発刊されるようになりましたが、その書籍の多くは、「子どものことばの発達につまずきが見

えられたとき、どのように考え対処するか?」というスタンスで書かれたものであるかと思われま

す。一方、本書はそのタイトル通り「生まれたときから

ことばを育てる暮らし方」として、必要なのは、定型の発達をしていくと思われ、お子さんにとっても、同様に必要なことなのです。わが子に障がいがあるのか

にわたり「ことばが遅い」と言われるお子さんとその家族に関わってきた著者が得た、一つの確信なのだと思

います。新鮮で、新米のお父さんたちにぜひとも読ませたい!と感じたのは、私ばかりではないと思える心のより所を持つことこそ重なるでしょう。そしてこの心の安定こそが、目には見えないけれど、子どもを一生支える力になるのだと、すべての親たちに語りかける著者の熱い思いが伝わってくる一冊です。

生まれたときから

ことばを育てる暮らし方

中川信子 著 保健同人社

「ことばはどのように育つのか?」「ことばを育てる暮らし方のヒント」…これらは、

何がしかの疾病や障がいを持って生まれてき

ないのか思い悩む前に、どの子にも必要な育て方のヒントがある

と分かれれば、親御さんが、しっかりと、著者には珍しくちょっぴり

辛口に書かれていますが、40年の長き

それが、40年の長き

「生まれたときから

ことばを育てる暮らし方

にわたり「ことばが遅い」と言われるお子さんとその家族に関わってきた著者が得た、一つの確信なのだと思

います。新鮮で、新米のお父さんたちにぜひとも読ませたい!と感じたのは、私ばかりではないと思える心のより所を持つことこそ重なるでしょう。そしてこの心の安定こそが、目には見えないけれど、子どもを一生支える力になるのだと、すべての親たちに語りかける著者の熱い思いが伝わってくる一冊です。

こと、ねえねえ、と言われたら、なあに、と

科 堀口 貞子



2014年2月1日

「家族と健康」
(日本家族計画協会)